

光る車止め 避難誘導

岡山県のゴム製品メーカーが、公園などの入り口に設置するボラード（車止め）に、防災機能を加えた新製品を開発した。夜間に自動点灯して被災者を避難場所まで誘導する。岩手県陸前高田市にある東日本大震災の復興モニュメント「奇跡の一本松」周辺にも設置されている。（洞井宏太）

岡山のメーカー新製品

東日本
大震災
4年

日進ゴム（岡山市北区今）が昨年10月に発売した「ロボラード」。再生ゴム製の円柱で、直径13センチ、地面からの高さ約80センチ。上面に太陽光パネル、筒部に点滅と常時発光の2種類のLED（発光ダイオード）を組み込んでいる。

日中に太陽光で発電して内

部の蓄電池に充電。暗くなるとセンサーが感知し、自動でLEDが点灯する。避難場所に指定された公園、公共施設の入り口や付近の歩道に設置することで、災害による停電で周囲が真っ暗になっても光って場所を知らせる。さらに筒部にはICタグが埋め込まれ、設置場所の地図や海拔などの災害時に役立つ情報を記録しておけば、近距離無線通信技術の国際標準規

夜間に自動点灯 「奇跡の一本松」周辺に試験設置

格「NFC」対応のスマートフォンに専用アプリケーションで読み取れる。公益社団法人・危機管理協会による防災用品の認定を取得済み。価格は施工費を含め1本9万円程度。陸前高田市に設置されているのは「奇跡の一本松」の北約100メートル。まだ試作段階だった2013年6月、日進ゴムが市に働き掛け、5本を試験的に採用してもらった。一帯は20年度をめどに国などが復興祈念公園整備を計画しており、本格採用を目指している。同社の渡辺育正社長は「通常の車止めだけでなく、万一の際に役立つ。日常的に意識してもらうことで防災意識の高まりにも貢献できれば」と話す。

め「復興の象徴」とされたが、海水に漬かった影響で枯死。保存を望む声を受け、市が2013年、幹を防腐処理し、枝葉をレプリカで再現した。



奇跡の一本松 東日本大震災の津波で被害を受けた岩手県陸前高田市の景勝地・高田松原にある松の木のモニュメント。約7万本あった松の中で唯一残ったた



⑤夜間に光るロボラード。奥はライトアップされた「奇跡の一本松」。昨年5月、日進ゴム提供④筒部のICタグには防災情報を記録できる